

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ちやいさば教室				公表日		2026年 2月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		1階と3階に分けて対応しています。		
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		基準を満たしています。				
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		注意が逸れないような個室の空間や視覚支援など子どもに分かりやすい構造化に取り組んでいます。				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		1日に2回の掃除・消毒を徹底し、その日の気温によって空調を調整するなど環境整備をおこなっています。				
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		個室、パーテーションで仕切った机など、環境整備しています。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に職員会議を行っており、アルバイトスタッフにも意見を言う機会を設けています。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		業務改善に繋がるよう職員会議を開いて検討し努力しています。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に職員会議を行っています。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後、必要に応じて検討します。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部の専門研修、学会参加、内部研修など、職員の質の向上には力を入れています。				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムは療育前にミーティングし、ソフトを活用してWEB上でも確認できるようにしています。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		心理職員がアセスメントを担当し、全ての職員が情報共有できるようにしています。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援計画会議を開き、関係職員が関わって計画しています。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		全職員が支援計画を基に療育を行っています。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル、インフォーマルなアセスメントを行い、情報共有しています。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		アセスメントを元に、支援に必要な項目を設定し、評価できる具体的な計画を立てています。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員会議で立案しています。				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員会議で工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別の支援とグループ活動の両方を組み合わせた計画で療育を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		療育前にミーティングを行い、ソフトを活用してWEB上でも確認できるようにしています。担当を明確にしチームで連携しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		療育後に振り返りミーティングを行い、ソフトを活用してWEB上でも療育記録を確認できるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録はWEB上でも確認できるようにし、検証・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングし、計画の見直しをしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインを基に、社会生活を見据えた療育を行っています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		日々の個別課題を自分で決めたり、自由遊びやは何をするか決めたりするなど自己決定する力を育てています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		障害児相談支援事業所を通して利用者は少なく、セルフプランで、サービス担当者会議はほぼ行われていないのが現状です。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関との連携体制はしっかりと整えています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年間計画・行事予定等は保護者から情報を得ています。送迎は行っていません。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前に情報共有し、書面にて小学校に申し送りをするなど相互理解できています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			現在は、障害福祉サービス事業所等へ移行する児童はいません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			必要時には連携します。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			現在は地域の他の子どもと活動する機会はありません。今後、必要に応じて検討します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			必要に応じて、参加を検討します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			療育後のお迎え時には、療育報告と共にその日の様子や課題などを共有し、共通理解できています。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			ペアレント・トレーニング講座、先輩ママの講座など、保護者が参加できる研修を行っています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			丁寧に説明しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			保護者の意向を確認し、優先順位を決めて最善の計画を立てるよう努力しています。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画を示しながら説明し、保護者から同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		子育ての悩みや相談に応じ、アドバイスや支援方法を伝えるなどしています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会という名目ではなく、ペアレントトレーニング講座や先輩ママの子育て講座が交流の場となっています。	きょうだい同士の交流の場は、必要に応じて今後検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情については、対応を体制を整備しており、適切に対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的な紙媒体の通信は発行できていませんが、lineを活用して連絡体制を整え情報発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		十分留意しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		lineなどの情報伝達には配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		もちクッキングは地域住民を招待しましたが、地域に開かれた事業運営とまでには至っていないかもしれません。	今後、必要に応じて検討します。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		全てのマニュアルは策定しており、訓練も規定通りに行っています。	専用ソフトに入れて、周知できるようにします。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に必要な訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬、持病などの状況は把握しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		療育内では、食べ物は提供していませんが、もちクッキングイベントでは安全に留意して対応しました。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全面には十分注意して支援し、研修や訓練は行っています。	安全計画を専用ソフトに入れて、周知できるようにします。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		事業所内に避難経路などを掲示していますが、どこまで周知されているか確認できていません。	緊急時の連絡方法など、専用ソフトに入れて周知できるようにします。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例は共有し、再発防止に向けて検討をしています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待研修は定期的に行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束事例はありません。やむを得ず身体拘束を行う場合も現在ははありません。		